



みわを元気に

三和地域協議会ニュース 第33号 令和2年9月30日発行

三和地域の人口・世帯数
男 1,546人
女 1,626人
合計 3,172人
世帯数 1,660世帯
(令和2年8月末 現在)

発行：三和地域協議会



原稿を見ながら練習中

(初めてとは思えない……)とても元気な声を吹き込んでくれました。いつもは朝放送の分だけをお願いしていたのですが、

毎日朝6時半と夜8時半、三和地域全体に無線放送が流れています。いつもは協議会事務局の職員がお知らせや行事をお伝えしていますが、毎月11日(異なる月もあります)のあいさつ運動(いい日あいさつデー)については、数年前から、定期的に三和学園の児童に放送の申込みをお世話になっています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響でしばらくできていなかった収録ですが、先日やっということができました。今回は、三和学園の6年生4人が、緊張を全く感じさせない

みんなで元気にあいさつを

～三和学園の児童があいさつ運動の放送収録～

お知れせしませう、三和地域協議会事務局の職員がお知らせや行事をお伝えしていますが、毎月11日(異なる月もあります)のあいさつ運動(いい日あいさつデー)については、数年前から、定期的に三和学園の児童に放送の申込みをお世話になっています。



仲良く元気な4人と先生、ありがとうございました！



順番に収録しました

今回は夜放送の分も急遽お願いしたところ、一もつと読みたいたくから「やりたい！」と快く引き受けてくれました。9月10日の夜・11日の朝に初めてのお披露目となりましたが、お聞きいただけましたか？

3年前にスタートした「みわひまわりライド」は、高齢者を中心に三和地域に暮らし続けるためのインフラとして成長してきました。現在の会員登録者数は135人(8月末現在)で、そのうち94人が既に利用しており、町内便の利用者数の累計は2,020人になりました。

今後も、三和地域住民が安心して住み続けられるよう、安心・安全で便利に利用していただける『地域公共交通』としての役割を担っていきたくと考えています。

令和2年8月末までの利用状況の詳細をお知らせします！

地域別登録者数



菟原地域	38人
細見地域	60人
川合地域	31人
地域外	6人

町内便の移動経路(出発地→目的地)



菟原地域内	42人
細見地域内	1,012人
川合地域内	35人
菟原地域～細見地域	624人
菟原地域～川合地域	2人
細見地域～川合地域	305人

町内便の利用目的



健康増進事業(体操)の利用	527人
医療受診(菟原・三和・歯科)	479人
三和支所、JAの会議や窓口手続き等	199人
社協ボランティア活動	141人
三和荘の利用	122人
三和会館(地域公民館)の利用	76人
JRバス・市バスから(へ)の乗り継ぎ	68人
ミニフレッシュ三和店への買い物	123人
その他(買い物、金融窓口、理美容他)	285人

皆さんの多様な利用目的に対応する移動手段
みわひまわりライド
運行開始から3年が経過しました！

Q&A

Q：「会員登録」の手続きは、すぐできますか？
A：5分程度の簡単な手続きで済みます。(手続き時には登録料500円と「認印」が必要です。)なお、担当者が希望者のお宅へ出向いて手続きをさせていただくこともできます。詳しくは、事務局(担当者)までお尋ね下さい。

Q：利用予約は、利用日の「2日前」までにしないとダメですか？
A：運転手は、送迎ができる状態で「待機」をしていません。運転手の手配を確実に、ご希望の日時に送迎するために、「2日前までの予約」にご理解をいただく必要があります。ただし急用等で事前に予約する間がなかったときは、ご相談下さい。運転手と自動車が手配できる時は対応いたしますが、お断りする場合もありますのでご了承ください。

「2日前まで予約」にご協力をお願いします！

図書館からの おしらせ

三和分館の令和2年度4月～8月までの貸出ベスト10をご紹介します。
そして、10月7日から三和分館貸出ランキング上位の本を展示します。
人気の本を取り揃えておりますので、ぜひご来館ください。



三和分館 令和2年度 貸出ベスト10

一般書部門

1位	オカシナ記念病院	久坂部 羊／著
2位	流浪の月	凧良 ゆう／著
3位	希望の系	東野 圭吾／著
4位	大名倒産 上下	浅田 次郎／著
5位	舞鶴の海を愛した男	西村 京太郎／著
6位	クスノキの番人	東野 圭吾／著
7位	あきない世傳金と銀 8	高田 郁／著
8位	清明(隠蔽捜査 8)	今野 敏／著
9位	山岳捜査	笹本 稜平／著
10位	地面師たち	新庄 耕／著
11位	ツナグ	辻村 深月／著
12位	ライオンのおやつ	小川 糸／著
13位	落日	湊 かなえ／著

雑誌部門

1位	NHKすてきにハンドメイド
2位	NHKきょうの料理
3位	オレンジページ
4位	NHK趣味の園芸やさいの時間
5位	SAVVY
6位	文藝春秋
7位	kodomoe
8位	ダ・ヴィンチ
NEW	天然生活(新しく入りました)
NEW	ESSE(新しく入りました)



羽ばたけ！地域のイチ押し企業

① 株式会社Season



福知山公立大学
地域経営学部 教授
亀井 省吾

はじめまして、福知山公立大学の亀井と申します。大学では、経営戦略や地域イノベーションを教えている経営学の教員です。広報紙のコラム記者という大役を仰せつかり、今回から不定期に連載をはじめることになりました。どうぞよろしくお願い致します。

昨年10月に東京の大学から赴任して早や1年がたとうとしています。今年度に入り、大学新入

生と三和町の地域研究をしています。前学期はコロナ禍の影響で全てビデオ通話での授業となってしまう残念な気持ちでございました。そんな折、「三和町の企業さんの取材をしてコラムを書いてみないか」とお誘いを受けました。書けるかなと心配な面もありましたが、三和町の皆さんや学生諸君に、当町で活躍している企業さんに興味をもってもらえるきっかけとなればとお引き受けさせて頂いた次第です。

さて、トップバッターとして今回紹介するのは、2017年に三和町にて会社設立し農業経営をスタートした株式会社Season（シーズン）さん。インタビューさせて頂いたのは、代表取締役の久保世智（くぼ ときのり）さんです。朝5時から収穫にいそしむ現場におじゃまして、お話を伺いました。



久保さん（右）にお話を伺いました

Q.. 具体的なにはどんな事業なのでしょう？
A.. 当社の事業は、主に万願寺甘とうの生産・販売を中心とした農業です。現在は、万願寺甘とうを、露地栽培5反とビニールハウス3棟の合計60アール程度と大規模栽培しています。今後も拡張していく予定です。

Q.. 農業を始めるきっかけは何だったのでしょうか？
A.. サラリーマンから事業者へ転向したのは、自分たちの力で、地域の衰退や食料問題といった社会課題を解決したいと思ったからです。農業には、人々の生活に食材を通じて潤いを与える「ワクワク感」を感じました。しかし、始めた当初は大変でした。亀岡でトマトやニンニクを生産していたのですが、収入が安定しませんでした。そんなとき、万願寺甘とうに出逢ったのです。収穫期間の長さ、病気への強さ、そして何より京野菜ブランドとして値崩れしにくいことが魅力でした。これだと思い、大規模に栽培が行える三和町で本格的に取り組むことにしたのです。

Q.. 生産へのこだわりは？
A.. いかに良質な万願寺甘とうを安定出荷するかがポイントです。そのために、有機堆肥を使うなど野菜づくりの要である「土づくり」にこだわっています。また、万願寺甘とうは過乾過湿に非常に弱く大変繊細な野菜です。そのため、明渠排水で圃場の排水性を確保

また、ここ2、3年、夏の日差しの質が変わってきているのか、露地栽培の20%から30%ほどが黄色く灼けてしまっています。今年、それを防ぐために実験的に遮光資材を採用してみたところ効果的なことがわかりました。来年からは開閉式にブラッシュアップさせ本格導入します。さらに、ハウスでは気温、湿度、CO2濃度などのデータを取得しており、今後、これらのデータ解析を行うことで、さらなる生産性向上を目指しています。このように、生産面の試行錯誤を繰り返していくことが大事だと考えています。

Q.. 農業は人手不足が深刻と聞きますが？
A.. 万願寺甘とうは果菜類で一つの株から多くの実がなり、特に収穫に人手を要します。これまでは人手不足を補うために、台湾・香港からワーキングホリデー人材を1年ごとに受け入れてきました。ところが、このコロナ禍でそれも難しくなり、どうしようか悩んだ末、地域より長期的

保し高畝栽培するほか、少量多灌水で土壌の水分量が急激に変化しない点滴灌水システムを導入しています。



万願寺甘とうの圃場

も難しうか



万願寺甘とう

Q.. 最後に、今後の抱負について聞かせてください。
A.. 私たちは挑戦することでワクワク感を楽しんでいます。こうすればうまくいくはずだと自信をもって実行しても失敗してしまうことがほとんどです。でも、その経験を活かして改善していくことで少しずつ良くなっていくことを実感しています。その先に新しい農業の姿があると信じていますし、結果として地域に貢献できると考えています。

候や季節性からくる不安定さを補う意味でも、加工品づくりに力を入れていきたいと思っています。また、その手段としてクラウドファンディングなどにもチャレンジしていきたいと考えています。



作業中の久保さん

Q.. 力を入れていることは何ですか？
A.. 万願寺甘とうや、今年から生産に携わっている三和ぶどうについて加工品づくりに挑戦したいと思っています。そもそも、「農業で稼いだお金で本場に自分たちが生活していけるのか」がこれまでの大きな挑戦でした。栽培方法の模索、労働力確保、スタッフ教育の手段など様々な失敗や成功を繰り返した結果、何とかやっていけるようにはなりました。しかし、どうしても天候に左右され、季節労働的な偏りがあるのが農業です。農業には人々の生活に潤いを与える力があると信じていますが、農家自身の安定や潤いがあったこそだと思っています。そんな中で、天

に働いてくれる人を募集するとともに、台湾・香港の人材について正社員雇用を決めました。そうすることで、働き手も生活が安定するとともに、作業工程に熟練していくことが可能となり、さらなる生産性向上が見込めるようになりました。

Q.. 力を振返って

は、米国ハーバードビジネススクールのマイケル・ポーター教授の提唱するCSV（共通価値の創造）の考え方に通じます。地域や食に関する課題解決に挑んだのは、まさにそれを体現している企業だと思っています。また、失敗から学び、試行することを繰り返して成功に近づいていく姿は、シリコンバレーでスタートアップ企業が実践しているリーンプを彷彿とさせます。三和町から地域、そして社会の課題を、試行錯誤しながら解決していく企業がたくましく羽ばたいていく未来が見えるような気がします。

F M丹波で月～金曜午後4時から放送中の番組「七色バラエティワイド」内で隔月1回、三和地域協議会が三和地域の情報を発信している『みわを元気に』のコーナー、第18回が8月25日に放送されました。

今回は、菟原下にある三和タオル製織株式会社の専務、藤田昌己さんをゲストにお迎えしました。

これまでの三和タオルさんの歩みや現在の事業そしてご自身のことなど、たくさんお話いただきました！福知山城との意外な繋がりや桔梗柄マスクの誕生秘話も…？！



三和タオルの「三」！

右のQRコードを携帯電話・スマートフォンやタブレットで読み取り、出てきたリンク先をクリックすると、内容をお聞きいただけます。（通信料がかかります）

ラジオは：
三和タオル製織



インタビューを振り返って
社会課題をビジネスとして解決する。これは、米国ハーバードビジネススクールのマイケル・ポーター教授の提唱するCSV（共通価値の創造）の考え方に通じます。地域や食に関する課題解決に挑んだのは、まさにそれを体現している企業だと思っています。また、失敗から学び、試行することを繰り返して成功に近づいていく姿は、シリコンバレーでスタートアップ企業が実践しているリーンプを彷彿とさせます。三和町から地域、そして社会の課題を、試行錯誤しながら解決していく企業がたくましく羽ばたいていく未来が見えるような気がします。